

安全工学シンポジウム 2011 でのパネルディスカッション開催案内(SSE14)

行事 HP: <http://www.jsme.or.jp/conference/anzen2011/index.html>

福島原発震災 2011 に見る通り、安全の絆が切れた際には、社会に多大な影響を与える。リスクベースド・アプローチを予防概念として実践する事は、有益であるが、近年安全設計の対象である日本のものづくりがおかしくなっている。一方で、ガラパゴス化が叫ばれ、他方では国際競争力の観点からものづくりの現場の海外移転は更に加速化し、国内が空洞化している。製品アーキテクチャの転換とグローバル化の流れに遅れて来た。これまでの日本のものづくりに安全知を加え、如何に発信できるかのパネルディスカッションを実施する。ものづくり経営学の提唱者で自動車産業の競争力に精通する藤本隆宏先生の特別講演を受け、ICT 産業、ものづくり全般、食品関係、医療関係の専門家に、安全を通じたこれからの日本の行方を伺い、討議し検証する。

日時： 2011 年 7 月 8 日（金）

場所： 機械振興会館会議室（東京都港区芝公園 3-5-8）

主催： 日本学術会議、幹事学会：日本機械学会

13:00 - 14:00 特別講演： 人工物複雑化とものづくり 藤本隆宏、東京大学

14:10 - 18:00 PD3 パネルディスカッション

テーマ名 <ものづくりと安全知の発信>

会場 第 2 室、企画・ファシリテーター：加部隆史、NPO 安全工学研究所

講師・講演題目・時間（PD3-1～-7 は各 20 分、途中休憩）

P3-1 グローバル化と安全～ものづくりと安全知の発信－PD3 の主旨及びデータ説明

加部隆史、NPO 安全工学研究所代表理事、日本機械学会 ICM&S 部門長

P3-2 ものづくり・日本発の実践手法～ICT 産業を中心に

大富浩一、株式会社東芝研究開発センター、参事

P3-3 国際競争力とは何か？～未来予測とイノベーションの実践

原陽一朗、長岡大学学長

P3-4 安全・安心社会を実現するための工学の役割とその制度

松岡猛、宇都宮大学大学院工学研究科教授、

日本学術会議工学システムに関する安全・安心リスク検討分科会委員長

P3-5 安全の責任とその達成の為の方法論

杉本旭、明治大学大学院理工学研究科新領域創造安全学系教授

P3-6 食の安全：食品機械の安全と衛生

佐田守弘、元味の素、日本機械学会 ICM&S 食の安全委員会委員長

P3-7 医療現場における安全

篠原和彦、東京工科大学、医学博士

総合討論及びとりまとめ

90 分

